



2020年6月4日

安全できれいな水を届けたい！ 今年も719万錠の浄水剤を途上国の子どもたちへ

「Kyoei Safe Water For Children プロジェクト」の取組みでユニセフに寄付

共栄火災海上保険株式会社(本社:東京都港区新橋1-18-6、社長:助川 龍二)は、本年4月に社会の発展と人々の豊かな暮らしへの貢献に向け「SDGs宣言」を行いました。当社の重点取組みのひとつである国際貢献活動の一環として、このほど、不衛生な水をきれいにする浄水剤を途上国の子どもたちへ届けるために、公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて、浄水剤719万錠に相当する額を寄付しましたのでお知らせします。

寄付の実施について

当社の国際貢献活動の取組みは長く、1993年から(*)実施していますが、この度の「Kyoei Safe Water For Children プロジェクト」の取組みは2015年からスタートし、以降、毎年実施しています。この取組みは、開発途上国の子どもたちへ不衛生な水をきれいにする浄水剤を届けるために、自動車保険料の一部を拠出し寄付するというものです。

今年も5月に2019年4月～2020年3月の1年間で集まった寄付金を公益財団法人日本ユニセフ協会にお届けしました。この寄付金は、浄水剤719万錠(小学校の標準的なプールで約100杯分の飲料水に相当)として開発途上国に届けられます。

当社では、共栄生協パートナークラブ(**1)や共栄プロクラブ(**2)をはじめ、当社代理店の皆さまのご支援のもと、積極的にこの取組みを進めてまいります。

(※1) 共栄生協パートナークラブ

生協代理店の相互研鑽を目的に1992年「共栄生協代理店会」から、2010年「共栄生協パートナークラブ」として改組し、生協組合員のより豊かな生活の向上を目指して活動を行っています。現在は42会員となっています。

(※2) 共栄プロクラブ

専業代理店を中心に保険の普及活動を通じた社会貢献や研修活動を目的に1998年に発足しました。現在、約330の代理店が会員となっています。



(日本ユニセフ協会から授与された感謝状)

■ 当社の国際貢献活動について(*)

世界には、安全に管理された飲料水を使用できない人々が22億人いるとされており、6億6,300万人もの人々が、安心して飲める水が身近になく、池や川、湖、整備されていない井戸などから水を汲んでいます。不衛生な水を口にすることで下痢や感染症を引き起こし、幼い子どもたちのかけがえのない命が奪われている現実があります。当社は、このような現状を受け、

2015年から「Kyohei Safe Water For Children プロジェクト」を毎年実施し、一人でも多くの子どもたちに安全できれいな水を届ける活動を支援しています。



このほか、バレンタインデーの義理チョコとホワイトデーのお返しを、もっと有意義な目的に使えるかと女性社員有志が発起し、1993年から「義理チョコ・あげたつもり・もらったつもり」バレンタイン・チャリティ募金」を実施しています。

また、各家庭で不用になった衣料品や余っている家庭常備薬、おもちゃ、文房具、裁縫用具などを集める「クリスマス・チャリティ」を同じく1993年から実施しています。いずれも西アフリカ・マリ共和国の難民支援を目的として取り組んでいます。



当社では、2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けて、今年の4月1日に「SDGs宣言」を行い、開発途上国への物資や金銭での支援を通じて、貧困や飢餓のない世界の実現を目指してまいります。

以上